

— Aさんの学級では国語の授業で行う句会に向けて、グループで話し合いをすることになった。I〜IIIはAさんたちが参考にした句、【会話文】はグループ活動の場面である。I〜IIIの句と【会話文】を読んで、あとの問いに答えなさい。

I

夏草や ① どもが夢の跡

松尾芭蕉 まつおばしやう

II

春雨や降るとも知らず牛の目に

小西来山 こにしらいざん

III

永き日や欠伸うつして別れゆく

夏目漱石 なつめさうせき

【会話文】

生徒A Iの句は、授業で鑑賞した句だね。俳人の松尾芭蕉が平泉を訪れ、草が生いしげっている高館で詠んだんだ。

生徒B 眼前に広がる夏草を眺めながら、昔その地で戦った武士の姿に思いをはせているんだよね。この句では、②の「や」によって、句に「間」が生まれ、鑑賞者の想像を膨らませていると私は思うよ。また、この「間」が、眼前の景色と想像の世界を違和感なく結びつけているのも素晴らしいね。

生徒C IIの句でも「や」があることによって、情景を鮮明に思い描くことができるね。でも、この句の見事なところは、季語である「春雨」の様子を「降るとも知らず」と表しているところだよ。句作においては、③表現の工夫によって、季語がきわ立つこともあるんだよ。

生徒D そうか。直接的な表現を避けることで、味わいのある句になるんだ。原則として一句に一つ入れる季語をうまく生かすことも大切なんだね。

生徒B 私も「雨」で句を詠んだことがあるんだ。「冬の雨街を彩る傘の花」という句で、「冬の雨」という季語を使って、一雨ごとに春が近づいてくるうれしさを詠んだつもりだけど、どうかな。

生徒C うーん。「雨」が降って「傘」が開くという景色は、月並みなものだから、句に深みを生む表現とは言えないな。「冬の雨」を「春近し」にするのはどうかな。

生徒A それはいいね。春がやってくるわくわく感と、色とりどりの傘が開く華やかな街の様子が「花」でつながり、句に深みが生まれるね。

生徒B うん、「春近し街を彩る傘の花」の方が良い句になった気がするよ。ありがとう。

生徒D 一言変えるだけで、良い句になるのは驚きだよ。句を詠むときのことは選びて、本当に難しいなあ。

生徒A 私は、句を詠むとき、意味の重なりにも気をつけているよ。例えば、「山に多くの登山客」は、無駄な表現の典型だね。詠み込む内容をしっかり選別して、限られた十七音を有効に使うことが句作には必要なんだ。

生徒C それなら、参考になる句があるよ。IIIの句を見てもらえ。季語が「永き日」で春の句だね。ある春の日に友人と長く語り合い、別れぎわに友人があくびをし、それがうつつたように自分もあくびをして友人と別れたという句なんだ。こう考えると、この句では、「欠伸うつして別れゆく」という④だけが詠まれ、⑤が省略されているから、それを鑑賞者が想像する余裕が生まれ、余情のある句になるんだよ。事の経緯を全部書いてしまうと、報告文のようになるからね。

生徒B なるほど、伝えたいことはたくさんあっても、その内容を厳選しなければならぬんだね。句会に出す句を詠むときの参考にしよう。

生徒D 今日は、とっても勉強になったね。実は、私も句会用に「春風にたんばゆれる帰道」という句を詠んでいるんだけど、今日の話し合いの内容を踏まえて改善してみるよ。

生徒C 良い句になったら、みんなで鑑賞しようよ。私も一句詠んでくるよ。

生徒A それはいいね。今日の話し合いを踏まえて詠んだ句について、みんなが推敲し合うことにしよう。次は、一人一句詠んで集まろう。

問一 空欄①に入ることばとして適切なものを、現代仮名遣いの平仮名で書きなさい。

問二 空欄②に入ることばとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 切れ字 イ 置き字 ウ 接尾語 エ 接続語

問三 傍線部③の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 「春雨はどこに降るか分からない」という表現で、「春雨」が「牛の目」にも降ることを表した。

イ 「春雨が降ったかもしれない」という表現で、「牛の目」が常にぬれている状態であることを表した。

ウ 「春雨が降っているのかわからない」という表現で、「春雨」の細かく静かに降る様子を表した。

エ 「春雨が知らないうちに降っていた」という表現で、「春雨」に動じない「牛」の姿を表した。

問四 空欄④・⑤に入ることばの組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア ④過程 ⑤情景 イ ④結果 ⑤過程 ウ ④感想 ⑤情景 エ ④結果 ⑤感想

問五 傍線部⑥について、次の問いに答えなさい。

(1) 【会話文】の内容を踏まえた句の改善点として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 「春風」に「や」が付いておらず、季語には「や」を付けるという俳句の原則を無視した句となっている。

イ 「春風」と「たんぽぽ」は春の風物であり、「春風にたんぽぽゆれる」がありきたりの情景となっている。

ウ 「春風」と「ゆれる」は意味が重なっており、両者を一緒に詠むことで無駄がある表現となっている。

エ 「春風」に「たんぽぽゆれる」と詠んだことで、事の経緯を全部書いた報告文のような句となっている。

(2) (1)を踏まえて改善した句として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 春風に桜がゆれる通学路 イ 春風がたんぽぽゆらす帰り道

ウ 春風や蝶の舞いたる通学路 エ 春風やはずむ歌声帰り道

問六 【会話文】の内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア Iの句が詠まれた背景についての生徒Aの説明が、生徒Bの俳句における「間」についての解説の根拠となった。

イ IIの句の説明を聞いた生徒Dの気つきによって、生徒Cの俳句についての知識の深さが賞賛されることになった。

ウ 生徒Cが具体的なことばを用いた改善案を助言したことで、生徒Bの詠んだ句はグループ全員が納得する良い句となった。

エ 生徒Bが句会用の自作の句に対して助言を求めたことによって、生徒Aは次回全員で句を推敲し合うことを提案した。

二 次の書き下し文と漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。
〔書き下し文〕

某甲夜暴かに疾み、門人に命じて火を鑽せしむ。其の夜陰隲にして、未だ火を得ず。之を催すこと急なり。門人憤然として曰はく、「君人を責むること亦た大いに道理無し。今暗きこと漆のごとし。何ぞ以て火を把りて我を照らさざる。我当に火を鑽するの具を求め得べし。然る後に得易きのみ。」と。孔文学之を聞きて曰はく、「人を責むるには当に其の方を以てすべきなり。」と。

〔漢文〕

某甲夜暴疾、命門人鑽火。其夜陰隲、未得火。催之急。門人憤然曰、「君責人亦大無道理。今暗如漆。何以不把火照我。我当得求鑽火具。然後易得耳。」孔文学聞之曰、「責人当以_{テス}其方也。」

(注) 某甲——ある人。 門人——召し使い。 孔文学——孔子の子孫。

(邯鄲淳「笑林」)

問一 傍線部①の「暴」と同じ意味の「暴」を用いた熟語を、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 暴風 イ 暴食 ウ 暴露 エ 暴落

問二 書き下し文の読み方になるように、傍線部②に返り点をつけなさい。

問三 二重傍線部 a・b の主語として適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 某甲 イ 門人 ウ 孔文学 エ 作者

問四 次の【資料】の内容を踏まえた本文の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

【資料】

文章に通じ、文字学にすぐれた学者として知られる人物であった邯鄲淳が、後漢末期にまとめた笑い話集が『笑林』である。どの話にも笑いがあり、なかには教訓的な意義が読み取れるものもある。

(参考 中国古典小説選12『笑林・笑賛・笑府』)

ア 主人の命令に素直に従わない召し使いと、召し使いの言い分を理解しようとしぬ主人とのすれ違いに面白さがあり、人を責めるには、相手の考えを理解すべきであるという教訓が述べられている。

イ 自分の主張が状況と矛盾しているにもかかわらず、怒って主人に意見する召し使いの様子に面白さがあり、人を責めるには、理屈の通った主張をしなければならないという教訓が述べられている。

ウ 主人が意図的に無理な要求をしたことに対し、召し使いが無理な要求を仕返すやり取りに面白さがあり、人を責めるには、要望の実現の可否を見極めなければならないという教訓が述べられている。

エ 自分の立場をわきまえず、主人の命令に対して当然のごとく反論する召し使いの様子に面白さがあり、人を責めるには、自分の立場を考慮に入れなければならないという教訓が述べられている。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(大ききんで世の中がひどくすさんでいた年)

今は昔、世のいたくわるかりける年、五月長雨の頃、鏡の箱を、女、持て歩いて売りけるを、三河の入道のもとに、持て来たりければ、沃懸地に蒔きたる箱なり。内に薄様を引き破りて、をかしげなる手にて書きたり。

今日までと見るに涙のます鏡馴れにし影を人に語るな

とあるを見て、道心発りける頃なりければ、いみじくあはれに覚えて、うち泣きて、物十石車に入れて、鏡は返しとらせてやりてけり。雑色男婦りて、「五条町の辺に、荒れたりける所に、やがて下しつ」となむ語りける。誰といふとも知らず。

(注) 三河の入道——大江定基(寂照)。

沃懸地に蒔きたる——金や銀の粉を散らして装飾した。

薄様——薄くすいた和紙。

道心——仏道を修めようと思う心。

物——食物、米。

雑色男——召し使いの男。

(「古本説話集」)

問一 「女」が「鏡の箱」を持ち歩いて売っていた季節として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

問二 傍線部①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 珍しい模様 イ 幼い筆跡

ウ しなやかな手 エ 美しい字

問三 傍線部②の表現について説明した次の文章の空欄に入る適切なことばを、漢字と送り仮名の二字で書きなさい。

「涙のます鏡」という表現に、歌の作者は「涙が 」という意味と、「澄んではっきり映る鏡」である「真澄鏡」の二通りの意味を込めている。

問四 傍線部③の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 今日限りの命である自分が鏡の中で生き続けることは口外してはならないという持ち主の忠告が書かれた和歌を見て、三河の入道は恐ろしく感じたから。

イ 生活のために鏡を手放したことを人には言わないで欲しいという持ち主の強い自尊心を感じる和歌を見て、三河の入道はその心の持ちように感服したから。

ウ 鏡に映してきた今までの自分の姿を他の人には伝えなくて欲しいという持ち主の切実な願いがこもった和歌を見て、三河の入道は強く心を動かされたから。

エ 昔から慣れ親しんだ鏡と別れる気持ちは言葉にできないという持ち主の深い悲しみが表された和歌を見て、三河の入道にはあわれみの心が芽生えたから。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

青森県に住む高校二年生の武田綾は、やりたいことが見つからず、進路調査票を提出できずにいた。そんなある日、公民館職員の前田井さんに誘われて、菱刺しの工房を訪れ、より子さんから手ほどきを受けることになった。

間違えたところの糸を引き抜いていると、

「綾ちゃんば見てると、初心ば思い出すねえ」

と、よりさんが言った。あたしの手元を見つめてほぼえんでいる。

「よりさんは何がきっかけで始めたんですか？」

「服のおつくりいだな。おはじきだのあやとりだのと同じく、遊びの延長でやったもんだ。友だち集めてさ。私も最初は裏から刺すのが苦手での。

布っこば持ち上げて覗き込んで刺したもんだ。別なこと考えながら刺して妙な形さなるのはしょっちゅうだった。だども、何べんもやり直しできる。気楽に失敗できたんだ。家族の着物っこさ刺してせ、喜んでもらえるのは嬉しかったねえ」

「へえ。着てくれましたか？」

「ん。上手でねかったもな。我だって、子どもや孫が、我のために菱刺ししてければ、どんな物でも嬉しいもんだよ」

よりさんは、好物を食べたみたいな顔をして目を閉じた。

「アッパは擦り切れるまで着てけだもんで、我は大満足だったし、友だちともおしゃべりしながら刺すのは本当に楽しかったねえ」

アッパとは、母親のことらしい。父親のことはダダと呼んだそうだ。菱刺しは貧しく苦しい生活のせいで、やむなく刺したというような仄暗い印象があったけど、こうして実際刺したり、よりさんの表情を目の当たりしている、そればかりじゃなかったのかもしれないと思えてくる。

確か、田向井さんは「おいしい物をずーっと食べていたいような感じ」とたとえていた。それはある。加えて、菱刺しは単なる針仕事ってわけじゃない。家族や大切な人に温かな着物を着せたい。どうせなら色や柄を

楽しみたい。そういう想いがある。

だからか。だから菱刺しをやっている間じゅう、満たされているのか。それなのに。

お父さん、パワハラ——。

ガッチガチの頭してると——。

あの時の父の顔が目には浮かぶ。

いつも通り表情はほぼ動かなかった。だからこそ、うろたえているのが透けて見えてしまった。

父と似ている指先を見る。針で突いた時の痛みを覚えている。

何も知らない癖に、あたしは頭に浮かんだ言葉をそのまま吐いたのだ。

スマホの予測変換で出てきた言葉をろくに意味も分からずにそれらしいからと反射的に使うみたいに。あたしはスマホじゃなく、人間のはずなのに。父がどう思うかなんて考えちゃいなかった。

とはいえ、改めて謝るのもなあ。他人相手ならできることが、親だとなぜか難しくなる。

視線をさまよわせたあたしの目を引き寄せたのは——。

「より子さん、そこに飾ってあるような財布とかバッグのような目の細かい布に刺す方法を教えてください」

コングレスを、本来刺したい生地にあてがってその上から一緒に刺す方法を教わった。

要するに目の粗い布を目印にするのだ。

刺し終わったらコングレスの糸を切って一本一本引き抜くと、生地が菱刺しが残るといふ寸法だ。

ワンポイントの模様はその夜のうちにできあがった。

ハサミを置くと、ゴツツと大きな音が出た。静かで慎重な菱刺しの時間がぶつりとたち切られる。

改めて持ち上げて、ハサミが机の上ののってから手を放してみる。音はせず、時間はつながり、余韻が残った。

あたしは通学用のリュックを引き寄せ、進路調査票を取り出した。テーブルの上の菱刺しの道具を脇に寄せ、調査票の折り目を丁寧に伸ばす。翌朝。

「お父さん、これ」

洗面所を出勤準備をしている父に、昨夜完成させた菱刺しを施したネクタイを渡す。

父は鉄製であるかのような堅牢な眼鏡を押し上げて、まじまじとネクタイを見た。相変わらず鉄壁の無表情だ。

「気に入らなかったら、無理にしておかなくていいから。それから、あたし、八戸の工業大学で伝統デザイン勉強しようと思う。進路調査票にはそう書くつもり」

宣言すると、洗面所を出た。

父は締めてくれるような気がした。残念なことに、あたしと父は似ているから、あたしの前では一生締めないだろうけど。

藍色のネクタイに刺した模様は、海のべこだ。ネクタイの剣先に刺した。淡い水色の亀甲模様とくすんだピンク色のべこの鞍。かわいい。マーサさんの見本ではシックに見えたが、色遣いによってポップにもなるらしい。新発見だ。模様と色の組み合わせは無敵だから、この菱刺しという物、一生飽きずに続けられそう。

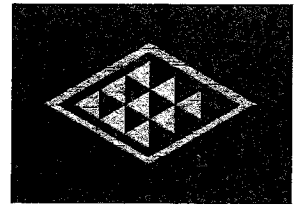
厄介な上司はきつとネクタイに気づくだろう。揚げ足を取るような人なら見逃すはずがない。父とのギャップに驚き、話を振るだろう。笑うかもしれない。

娘はできることはしました。あとはお父さん次第です。

結果を言えば、帰宅した父はスーツのまま、背筋を伸ばし無表情であたと母の前を無意味に往復した。

(高森美由紀『藍色ちくちく』)

(注) 菱刺し——青森県に伝わる刺しゅうの技法。



【菱刺しの例】

コングレス——目のはっきりわかる綿素材の布。

海のべこ・亀甲模様・べこの鞍——菱刺しの模様の種類。

マーサさん——菱刺しを扱ったプログラの管理人。

問一 傍線部③・⑤・⑧の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 二重傍線部にある付属語の数を、数字で書きなさい。

問三 傍線部④・⑥の本文中の意味として最も適切なものを、次の各群の

ア〜エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

④ ア 十分に イ すぐに ウ 特に エ かりに

⑥ ア 尺度 イ 結果 ウ 手順 エ 技巧

問四 傍線部①のより子の心情の説明として最も適切なものを、次のア〜エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 今の綾の姿と菱刺しを始めた当初の未熟な自分の姿とを重ね合わせて、綾にはぜひ自分と同じ道を歩んで欲しいと思っている。

イ 家族を思って刺したり仲の良い友だちと一緒に刺したりする楽しさを思い出し、菱刺しを始めた頃の新鮮な喜びに浸っている。

ウ 年齢を重ねた今だからこそ自分の下手な菱刺しの着物を着てくれた親の気持ちが分かり、その寛大さに頭が下がる思いでいる。

エ 長年続けてきた菱刺しが多くの人の人生を支えていたことに気が付き、厳しい練習に励んだ日々が報われたことに満足している。

問五

傍線部②の綾の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 菱刺しを通して出会った人たちのことばを思い出し、自分が多くの人に助けられていたことに気づいた綾は、今まで見守ってくれた父親に対して身勝手な態度をとった自分を恥じている。

イ 自分を満たしてくれる菱刺しの魅力について考えることで、それが人と人との絆を深めるものだと気づいた綾は、菱刺しを続けることでいつか自分も家族に優しくなれると期待している。

ウ 菱刺しは単なる針仕事ではなく、家族への愛を表現するためのものだと気づいた綾は、深く考えずに人を傷つける言葉を吐いてしまう自分には菱刺しを続ける資格がないと反省している。

エ 自分が菱刺しに夢中になる理由を考えることで、自分の心の奥底にあった家族を大切に思う気持ちに気づいた綾は、父親に対して感情的になりひどい言葉をぶつけたことを後悔している。

問六 傍線部⑦の綾の様子として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 自分の作品を完成させたことで湧き上がる心地よい興奮が覚めやらぬままに、自らの将来に真っすぐ向き合おうとしている。

イ 短時間で高度な技法を習得したことで生まれた自信を胸に、今まで考えもしなかった新しい道に挑戦する意欲を高めている。

ウ 父親を喜ばせる方法を思いついたことで気持ちが明るくなり、翌朝自分の進路希望を父親に伝えることを楽しみにしている。

エ 菱刺しに一生懸命取り組むことで新しい境地に到達し、その余韻の中で菱刺しを一生の仕事にできる幸せをかみ締めている。

問七

次の【図】は傍線部⑨の内容を整理した生徒のノートの一部である。【図】の空欄に入ることを、本文中より一文で抜き出し、最初の三字を書きなさい。

【図】

綾は素直に自分の気持ちを言えない。

※象徴的な発言

似ている

父は素直に気持ちを行動に表せないから、娘の前ではネクタイを絶対に締めないだろう。(綾の推測)

問八

傍線部⑩の綾の心情の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 父親の過去の言動を許す気持ちを伝えられたことで、菱刺しを通して自分が大人になったと実感すると同時に、これからも頑固な父親のことは受け入れていこうと思っている。

イ 自分の気持ちを堂々と伝えることで、成長した自分の姿を父親に見せることができたという充実感を感じると同時に、意地っ張りな父親を心から応援していきたいと思っている。

ウ 父親にネクタイを贈ることで、日頃の苦勞をねぎらう気持ちを伝えられたという達成感を味わうと同時に、これで自分が決めた進路を父親は認めてくれるだろうと思っている。

エ 自分の宣言に対して父親が何も言わなかったことで、夢の実現に向かって歩み出せる喜びを抱くと同時に、会社で苦勞をしている父親には困難を乗り越えてほしいと思っている。

五 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

長きにわたって他の民族や部族との争いを繰り返してきた人類は、その「戦利品」として生活の豊かさや秩序の安定を獲得してきた。特に十九世紀後半以降の近代化は、国家を強大にし、人々に豊かさをもたらすものとされたら、多くの国が、そのための産業化と生活の合理化に努めてきた。近代化は富だけでなく、社会における個人の役割を大きくする一方、近隣住民の助け合いを基盤にした、社会の中の共同的な要素を抑制する傾向をもつ。それは、とりわけ農村における伝統社会の息苦しさを打破しようとする内側からの動きと、国家と国民とを一对でつなげようとする近代国家による外側からの働きかけの合成物であった。諸個人がこの流れの中で自らの置かれている共同体から切り離されていったのは半ば当然だったのである。

日本の場合、江戸時代までの社会は「家のく助」や「村のく太郎」などという形で、所属する集団との関係の中で個人を同定していた。明治時代、そうした所属関係から離れてすべての人間を「国民」として一元的な戸籍に登録することが目指されたことは、個人の時代の到来を意味した。夏目漱石が一九一四年（大正三年）に学習院大学で行った講演「私の個人主義」は、当時の日本で「個人主義」という発想がまだ新鮮な響きをもっていたことを象徴的に示している。その後の近代化は個人の豊かさを象徴する所有財を多様化し、車や家、学歴や会社名など他者との差を示す標識の種類を増やすことを通じて、社会の個人化を促進した。

ところで、日本で個人の存在が急激に前景化した時代は、国家権力が強化された時代でもあった。明治政府は、それまで全国各地の藩に任されていた統治を一元的に行う各種のシステムを導入した。先に述べた、国民一人ひとりを出生関係により登録する戸籍制度の充実は、その典型である。

個人を前面に出す傾向は国が一方的におしつけたものではない。発足したばかりの明治政府が新しい修身の教科書としてサイ用したサミュエル・

スマイルズの『自助論Self-Help』の訳書『西国立志編』がたどった道のりは、まさに国と個の緊張関係を物語っている。「天は自ら助くる者を助く」の有名な書き出しから始まるこの本は、個人の成功を、外部に頼らずに、内なる努力と工夫による独立した精神で成し遂げる重要性を訴えた作品である。家や村を生きる基盤にしてきた日本人にとって、個人を真ん中におく発想はさぞかし新鮮であったに違いない。

スマイルズは個人の成功を「個人の努力」に還元し、国家の成功はそうした個人的な努力の積み重ねに過ぎないと考えていた。現在の日本人の視点からはイメージしにくいかもしれないが、彼の問題意識は、国家の制度に頼りきって個人の意思がもつ可能性を矮小化してきた欧米社会への疑問から出発する。そこからスマイルズは、個々人の意思が国家の性質を決定するのだという結論に至る。「個人の尊重」は、やがて人権という概念に成熟し、長い時間を経て、近年ではSDGs（持続可能な開発目標）の掲げる「誰ひとり取り残さない」という理念へと展開してきた。個々人の自由こそ重要であるという理念は、とりわけ自由主義の社会においては市民権を得たといつてよい。

だが、一人ひとりの自由や権利を保障すれば、個々人が集まってつくれる社会の自由や権利も保障されるものだろうか。合理的な個人の集まりが集団の合理性を導くとは限らないという逆説は、長く社会科学者を魅了してきた。そして特に現代の経済学では、合理的な個人は自身の属する集団の効用よりも自分自身の効用を最大化すべく行動するという考え方が半ば常識になっている。個人化は、能力や富を他人と比較させて、競争意識に火をつける。そうであれば合理的な個人は、なぜ自分の利益を犠牲にしてまで互いに協力することがあるのだろうか。

この疑問に対する答えは、人間が単なる「個々人の群れ」ではなく、有机的なまとまりをもった集団に所属しながら生きていることを考えてみることで得られそうだ。人は複数の集団に同時に所属できるので、競争や合理性の意味もその都度変わってくる。たとえば会社の部署の中を覗いてみ

ると、社員一人ひとり互いに出世や給料をめぐる競争しているが、部署間の競争となれば、社員同士は競争相手から協力する仲間へと変化する。そして、これが会社間の競争となれば、部署同士はライバルではなく、協力相手となる。さらに、業界間の競争という視点で見ると、「同業者」として会社間の協力が見られる。このように重層的な競争では、より上位レベルの競争に勝つことを目的に、下位組織のレベルで「協力」が促されることもある。

競争の相手が自分の属する共同体の外に見出されるときには、普は競争している所属組織内部が一体性を意識するため、協力が強く促進されることがある。国内政治が不安定になった国が、対外的な脅威をことさらに強調するのは、このメカニズムを利用して国民の団結を促そうとする例である。

⑧ このように対外的な競争と対内的な協力が重層的に織り込まれているのが現代社会の諸集団の特徴である。

(佐藤仁『争わない社会』)

(注) サミュエル・スマイルズ——英国の作家、医師。

矮小化——規模が小さくなること。

問一 二重傍線部A、Cの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のA、

Eからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

A ア 祝サイの準備をする。 イ 彼は医学界の俊サイだ。

ウ 森林を伐サイする。 エ 料理に根サイを使う。

B ア 注意を喚キする。 イ 公共の交通キ関を利用する。

ウ 実力を発キする。 エ キ急の事態に備える。

C ア らせん階を上げる。 イ 果に富んだ性格。

ウ 友達とダン笑する。 エ ダン房の適切な使用。

問二 傍線部⑤はどの文節に係るか。一文節で抜き出して書きなさい。

問三 傍線部⑥の本文中の意味として最も適切なものを、次のA、Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A 広く認められて一般化した。 イ 民衆の間で評判になった

ウ 誤って政治的に利用された。 エ 特定の集団内で広まった

問四 傍線部①の説明として最も適切なものを、次のA、Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A 産業化によって人々が豊かになったことで、社会の中の共同的な

要素が必要ではなくなっていた。

イ 近代化に際し共同体解体を進めた国家のもとで、共同体からの自立を求める個人が増加していった。

ウ 社会秩序の安定により人々に富がもたらされると、社会における個人の役割も大きくなっていった。

エ 国家が強大になっていくと同時に、社会においては個人の自立に重きを置く風潮が強まっていった。

問五 傍線部②の理由を説明した次の文の空欄に入る適切なことばを、本文中から十四字で抜き出し最初の三字を書きなさい。

日本人は から。

問六 傍線部③の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 個々人の意思にかかわらず個人の存在が国家の中心に据えられたことにより、あらゆる事が個人の裁量に委ねられるようになり、「個人主義」が急に拡大され始めた。

イ 所属関係から解放された個人を国家が「国民」として一元的に統治しようとしたため、国と個人との間に緊張関係が生まれ、個人の独立心が突如として高まった。

ウ 近代化により所有財が人間の豊かさを象徴的に表す標識として認識されたことで、個々人が利己的に財産の所有を求めようになり、社会の個人化が一気に進んだ。

エ 国民を一元的に管理する仕組みの導入に加え、個人が努力をすれば目的は達成できるという考え方が広まり、国民一人ひとりの役割や価値が突然強調され始めた。

問七 傍線部④の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 国家の成功は個人の成功の積み重ねであり、その利益は国家により個人に還元されるべきであるという考え方。

イ 国家の制度は個人の意思で決定されるものであり、それは個々人を尊重する制度でなければならないという考え方。

ウ 国家や社会は個人の集合であり、社会において個人の存在が何よりも優先されなければならないという考え方。

エ 国家と社会の担い手は個人であり、個人の努力によって社会の自由と権利は保障されるべきであるという考え方。

問八 傍線部⑦の内容を説明した次の文の空欄に入る最も適切なことばを、本文中から五字で抜き出して書きなさい。

合理的な個人が を優先させることへの疑問。

問九 傍線部⑧の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 対外的な競争を繰り返すことで、集団の一体性は強固になっていくことから、一般的に競争と協力は相反する関係にあると考えられているが、集団内部では互いに補完し合う関係にあること。

イ 協力的な環境の中には競争の要素があり、競争の一部は協力関係が成していることから、競争と協力は単純に二つに分けて整理できるものではなく、集団においては両方を内包していること。

ウ 現代社会では競争が成長や革新につながるものと考えられていることから、対内的な小集団に協力を織り込むことで集団内に競争を生み出し、集団が常に活性化する構造になっていること。

エ 集団に所属する個人が互いに競争と協力を交互に繰り返すことが集団内の秩序の安定をもたらすことから、個人が多数所属する集団においては、協力和競争が重層的に折り重なっていること。